



- ▶ 養成研修 「スクールソーシャルワーカーの動き～拠点巡回型編～」
講師：梶谷 優子
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
- ▶ 専門研修 「学校教職員へのコンサルテーション活用法」
講師：奥村 賢一
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授
- ▶ 基礎研修 「スクールソーシャルワーカーが働くフィールドを知る
～多職種との連携編～」
講師：蒲池 克
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

養成研修

「スクールソーシャルワーカーの動き～拠点巡回型編～」

講師：梶谷 優子 福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー



今回の養成研修では、福岡市スクールソーシャルワーカーの梶谷さんのお話を聞きました。事例として挙がっていたのは、「虐待的養育環境」にある姉妹でした。私はこの4月から福祉の現場ではたらかせていただくことになり、子どもの福祉とかかわることも多々あります。今回の事例は、これまでに見聞きした子どもたちの事例と重なるところが多くありました。梶谷さんもめずらしいケースではないと前置きされてはいましたが、やはり通告における学校のとまどいや職権保護に至るまでのいきさつ等、思い描く道筋どおりにはいかないのだと思いました。しかし、想定外の出来事が起きたとしても、事前に想定していればそれは「想定内の出来事」となり、いづらか落ち着いて対処できます。今回の研修ではそれを痛感しました。

個人演習の後にグループワークをしたことで、それぞれの節目において起こり得る可能性をより多く考えることができました。印象に残ったのは、学校の先生が、子どもたちが保護されることを受け入れられない事態もあるということです。これは想像することができませんでした。しかし、先生たちが日々子どもたちと真剣に向き合っていることを考えれば、想像できることだったかもしれません。スクールソーシャルワーカーはそうした学校と、他専門機関やさまざまな制度とをつなぐ役割を担っている以上、冷静な判断と行動が求められます。熱い心と冷静な頭、これはスクールソーシャルワーカーだけに限らず対人援助職に共通して言えることだと思いますが、今回の研修を通して改めて大事なことだと感じました。私は今スクールソーシャルワーカーとして働いているわけではありませんが、今回感じたことを忘れず、地域の子どものために今後も勉強していきたいです。

賛助会員 内山 直美



専門研修

「学校教職員へのコンサルテーション活用法」

講師：奥村 賢一 福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授



今回の専門研修では奥村先生の「学校教職員へのコンサルテーション活用法」をご講義いただきました。私は、教職員へのコンサルテーションとは難しいものだなど日頃から感じていました。始めに奥村先生の話ではコンサルテーションは指導ではなくガイドであるという話をされ、とても共感いたしました。「コンサルテーションを促進するためのステップ」では、教職員への支援のスキルを詳しくご講義いただきました。たとえば「教師の考えに共鳴板を提供する」とか、教職員に解決方法を提案する姿勢や学校に根差したコンサルテーションを行うこと、また結果の良し悪しばかりではなく変化やプロセスを評価することなどを具体的に学ばせていただきました。最後のロールプレイでは学校の先生の立場として相談した時の学校の先生の気持ちを感じることが出来ました。そして結果の見えづらさコンサルテーションのやる前とやった後をチェックしていく事の重要性が強く印象に残っています。

今回の専門研修では過去に行ってきた教職員とのコンサルテーションを振り返ることが出来、自分のコンサルテーションを評価するまた改善するとてもいいきっかけになりました。本当にありがとうございました。

正会員 豊増 康総



基礎研修

「スクールソーシャルワーカーが働くフィールドを知る

～多職種との連携編～」

講師： 蒲池 恵 福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

今回の基礎研修では、講師の蒲池さんより「スクールソーシャルワーカーが働くフィールドを知る～多職種との協働編～」というテーマで、様々なグループワークを通して、『協働する』ことの大切さを体験的に学ぶことができました。

普段現場で働く上で、協働することの難しさを日々痛感しておりますが、『自分が専門職として100%でないのと同じで、協働する相手も必ずしも100%ではないということ』、『協働する相手も自分と同じ人間であることを忘れてはならない』という言葉に、これまでの自分の多職種と関わる姿勢を振り返ることができ、改めて協働する相手がいることで、多様なニーズに取り組むことができると実感しました。

またグループで一つのぬり絵を完成させる演習では、協働する相手の役割を踏まえた上で、相手が自ら考えて動くことができる状況（隙間）を作ってあげる、そうした余裕を持つことも協働のポイントであると学び、協働相手の機能、役割だけでなく、相手の強みや優しさにも焦点を当てることが、協働する上では大事なことだと学びました。子どもを通じてつながり合うことができる支援を目指して、今後も専門職として更なる知見を深めていきたいと思っております。

正会員 秦 菜央美





12月研修会 2014.12.13

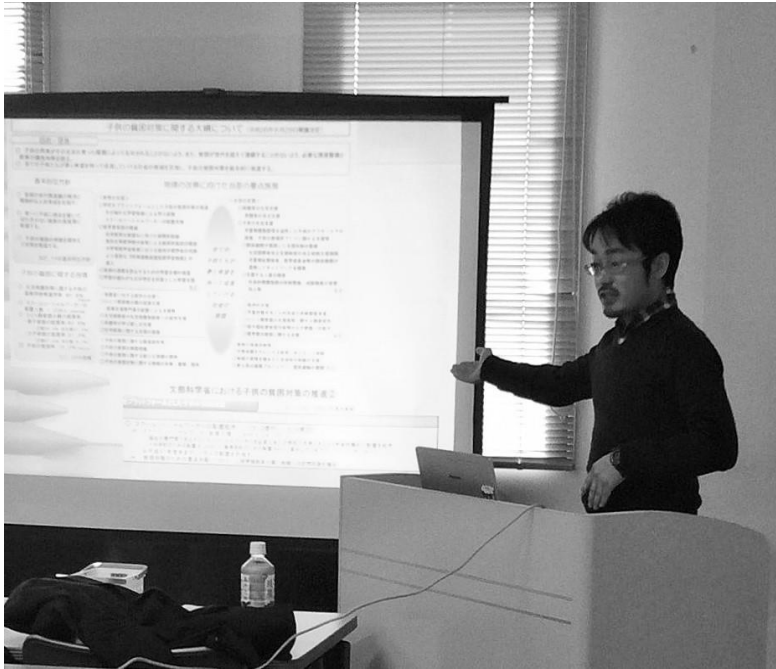
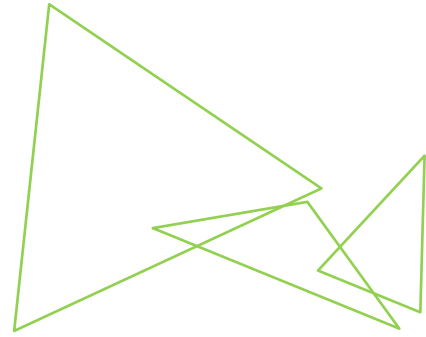
- ▷ 養成研修 「スクールソーシャルワーカーの仕事～派遣型編～」
講師：下田 学
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局長
九州工業大学 キャンパスソーシャルワーカー
- ▷ 専門研修 「事例検討」
講師：奥村 賢一
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授
事例提供者：横山 明希
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
- ▷ 基礎研修 「スクールソーシャルワーカーの動き
～アセスメントを通じたクライアント理解～」
講師：高口 恵美
大牟田市・八女市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

養成研修

「スクールソーシャルワーカーの仕事～派遣型編～」

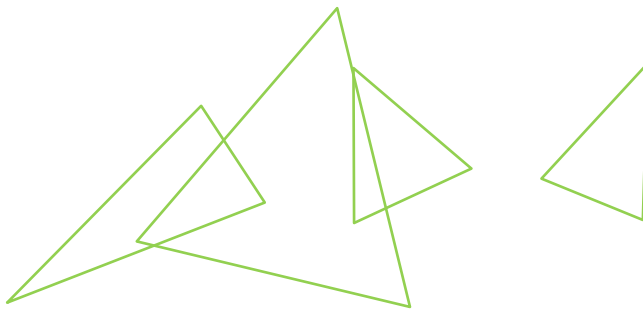
講師：下田 学

九州工業大学 キャンパスソーシャルワーカー



今回の養成研修は「派遣型」のスクールソーシャルワーカーの仕事についてのお話でした。北九州市は教育委員会に配置され、指導主事と連携し、支援を行う体制で、前回の研修で伺った福岡市とも違って、まだスクールソーシャルワーカーとして働いていない私にとって、大変参考になる内容でした。各教育委員会それぞれの方法でスクールソーシャルワーカー業務がなされていて、恐らく、学校側のスクールソーシャルワーカーという職に対するとらえ方も各現場で違うのだろうなとも思いました。実際に北九州市でスクールソーシャルワーカーをされていた下田さんの、最初の学校訪問のお話がとても印象的で、これからスクールソーシャルワーカーの仕事に就きたい私にとって、学校側との関係づくりをどのようにしていくのか具体的に知りたかった情報なので、専門性をアピールする必要があるということと共に、訪問初日のお話はとても興味深く聞かせて頂きました。出来れば現役スクールソーシャルワーカーのみなさんの関係者との関係づくりのお話をもっと聞きたいと思いました。また、高校でのスクールソーシャルワーカーの必要性や、実例をもとにしたアセスメント方法、想定しながら動くことが大事だというお話など、とても勉強になりました。ありがとうございました。

賛助会員 児島 梨恵



専門研修

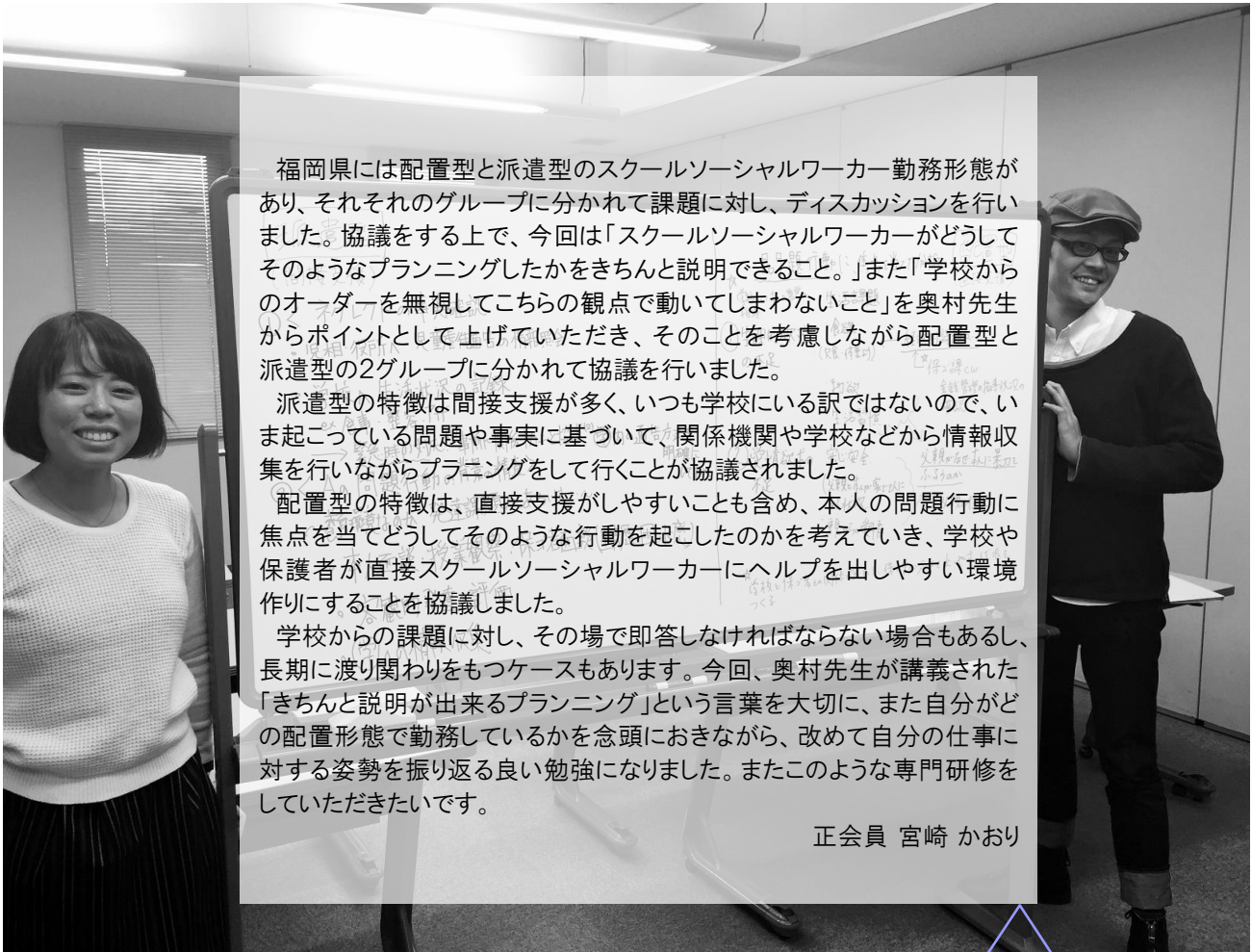
「事例検討」

講師：奥村 賢一

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

事例提供者：横山 明希

福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー



福岡県には配置型と派遣型のスクールソーシャルワーカー勤務形態があり、それぞれのグループに分かれて課題に対し、ディスカッションを行いました。協議をする上で、今回は「スクールソーシャルワーカーがどうしてそのようなプランニングしたかをきちんと説明できること。」また「学校からのオーダーを無視してこちらの観点で動いてしまわないこと」を奥村先生からポイントとして上げていただき、そのことを考慮しながら配置型と派遣型の2グループに分かれて協議を行いました。

派遣型の特徴は間接支援が多く、いつも学校にいる訳ではないので、いま起こっている問題や事実に基づいて、関係機関や学校などから情報収集を行いながらプランニングをして行くことが協議されました。

配置型の特徴は、直接支援がしやすいことも含め、本人の問題行動に焦点を当てどうしてそのような行動を起こしたのかを考えていき、学校や保護者が直接スクールソーシャルワーカーにヘルプを出しやすい環境作りをすることを協議しました。

学校からの課題に対し、その場で即答しなければならない場合もあるし、長期に渡り関わりをもつケースもあります。今回、奥村先生が講義された「きちんと説明が出来るプランニング」という言葉を大切に、また自分がどの配置形態で勤務しているかを念頭におきながら、改めて自分の仕事に対する姿勢を振り返る良い勉強になりました。またこのような専門研修をしていただきたいです。

正会員 宮崎 かおり



基礎研修

「スクールソーシャルワーカーの動き

～アセスメントを通じたクライアント理解～」

講師：高口 恵美 大牟田市・八女市教育委員会 スクールソーシャルワーカー



今回の基礎研修では実例をもとに、グループでアセスメントを行いました。これからスクールソーシャルワーカーの仕事に就きたいと思っている私にとって、ジェノグラム作成からの具体的なアセスメント方法は、とても参考になりました。最初に提示された情報だけでは絞れなかった課題が、新しい情報が入る度に絞られていくのと同時に、他に新たな課題が出てきたりと、初めに自分が想定していた状況からどんどん変わっていく過程は驚きました。最初に高口さんより、「本人と保護者のニーズがはっきりしていない状況から始まることが多く、共に考えていくことが大事」と、お話されたことを、今回の作業過程で実感することができました。ワーカーはまず最初の段階で、必要な情報は何か、そしてそれをどうやって集めていくかを考え、本人と保護者のニーズを明確化していくことが必要で、そのために、関係者との信頼関係づくりやワーカー自身の客観性、専門性や自己覚知が必要だと思いました。グループ内で話し合うことで、自分一人では想定出来なかった課題内容や、考え方、アセスメント方法が共有できたので、とても参考になりました。現役スクールソーシャルワーカーの方もいらしたので、様々な意見が聴けて、とても勉強になりました。ありがとうございました。

賛助会員 児島 梨恵

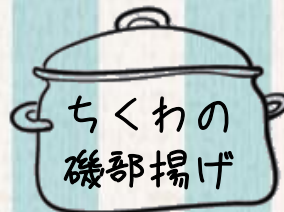


特集1

好きな給食は？



- * おいしかった
- * 一番テンションがあがった
- * カレーの日は、うれしかった
- * クラスのテンションが上がっている感じが好きだった



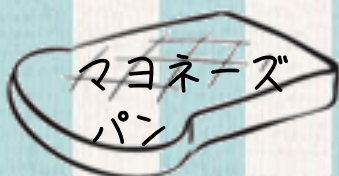
- * 何とも言えないおいしさ
- * 生のちくわは苦手だが、なぜか磯部揚げは大好きだった



- * 素朴だけどおいしかった
- * 家のよりおいしかった



- * 突然新メニューで登場し、学校で食べるメロンパンが格別においしかった

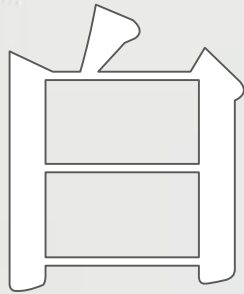


- * 特別メニューだったので、とてもおいしく感じた

研修会にてご協力頂いたアンケートをもとに作成しています。ここに掲載している他にもたくさんの回答をいただきました。全てをご紹介できず、すみません。アンケートのご協力ありがとうございました。

特集2

SSWのイメージを色で表すと何色？



12名

- * 常に初心(真っ白な心)を忘れずにいたいという希望も込めて
- * 中和の色。色を淡くするので、それぞれの色をつないでいける
- * 何色にでも染まったるぞ！！的な勢い！！
- * 相手に合わせてどんないろにでも染まる！！
- * 白はどんな色でも綺麗にうつし出せる



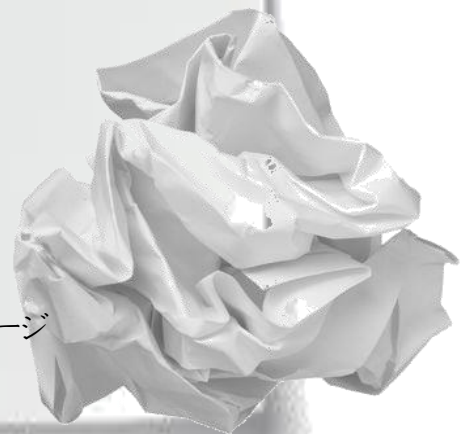
6名

- * 必要に応じての対応がカメレオンのようなイメージ
- * 支援に向かっている目標は同じだが、細かな支援や個性はSSWそれぞれである
- * 自分の主となるカラーはあるが、ケースに応じて“色”を使い分け、“かけはし”となってつなぐ



5名

- * さわやかなイメージ
- * FASSWのチラシの色
- * 冷静に物事を考えて行動しているイメージと、あつい思いを持ってるとけど涼しげな安定している青い炎のイメージ



研修会にてご協力頂いたアンケートをもとに作成しています。ここに掲載している他にもたくさんの回答をいただきました。全てをご紹介できず、すみません。アンケートのご協力ありがとうございました。

峯浦 聡子

SATOKO MINEURA

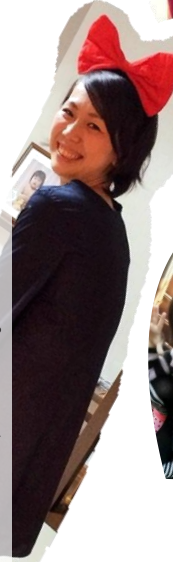
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー



「自己覚知を基盤として実践すること」を目標に、今年度より福岡市でSSWをしております峯浦聡子です。遠賀郡芦屋町での経験も含めると、SSWになって三年目です。この目標をはっきりと意識するようになったのには、A子との出会いがあるからです。

ある日、A子と面談しました。A子は、私に「出産したとき、どう思った？」「母親は子どもの誕生日の日は何をするの？」等の質問を受けました。私自身、二児の母親であるので、「私の場合は…」と自分の体験を話しました。しかし正直に言うと、戸惑っていました。母親や家庭を知らない子どもにどこまで話していいのかわからない、環境のギャップに苦しむのではないかと、私はどのような見通しを持って何を伝えるべきなのか。会話を重ねる中で様々な葛藤があり、自分の対応が良かったのか、気になっていました。しかし、A子が最後の面談で私に言ってくれた言葉は「私は記念日を大事にしたい」ということでした。そのとき私は初めて、A子は自分が親から愛されていたのか、周りにとって必要な存在であるのかを確認したかったのだと知りました。それと同時に二人の我が子の姿が浮かびました。母親として、我が子達に伝えられているか、当たり前のようなことでも子どもたちにとっては、親や周りの人から愛情を感じることなのだ気付きました。

この仕事をしているとワーカーとして、母親として、自分を振り返ることが多々あります。自己覚知の大切さ、自分のことを知ることで、自分をコントロールする、自分が相手にどんな影響を与えるのかを知ることになり、自分自身を大切にすることで、自分に余裕を持つことができ、冷静に客観的に相手と接することができると思います。私はこの仕事と出会えて、本当に良かったと思います。これからもワーカーとして、母親として、子どもたちの笑顔を増やせるようにしていきたいと考えています。



FASSWより：Facebookを立ち上げています！！

「福岡県スクールソーシャルワーカー協会」でご検索下さい。

研修事業より：次回の研修会は、2月14日（土）です。詳細はメーリング等にてご案内します。ご参加お待ちしております。

広報事業より：次回広報誌の配信は、3月末です。

発行責任者： 奥村 賢一

編集担当： 広報事業 蒲池 恵 寺田 有起 森山 麻衣子

お問い合わせ

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局

〒839-8502

福岡県久留米市御井町1635番地 久留米大学 文学部社会福祉学科 (担当/山崎)

Tel：0942-43-4411 Fax：0942-43-5160

E-mail：fassw-2012@hotmail.co.jp

